特色のあるため池の紹介

名　　称	所　在　地
まわりぜきおおためいけ ***廻堰大溜池***	青森県北津軽郡鶴田町大字廻堰

貯　水　量	受益面積	堤　　高	堤　頂　長
14,256 千m^3	400 ha	7.1 m	4,060 m

ため池の紹介文

廻堰大溜池は、町の西部にあり「津軽富士見湖」の愛称で地元住民に親しまれてきました。

古記によると、このため池は岩木山を水源とする白狐沢からの自然流水による貯水池であったものを万治３年(1660年)に４代藩主津軽信政公が用水補給のための堤防を築き用水池にしたものと記録されています。

春の増水期には約14,000千ｔ(かんがい面積400ha)の貯水量を有し、このうち西津軽の補給用水として566万ｔ(補給面積5,500ha)をかかえ、水深約７m、満水面積281haと県内のため池としては有数の規模であり、西津軽一円の農業にとっては欠くことのできない重要な役割を果たしています。

また、このため池の特徴は、周囲11kmのうち約４kmが堤となっており、堤頂長は全国有数であるほか、堤高約７mである事は他に例がありません。それに加え、ため池の中に壮大な岩木山の姿を映すさまは、まさに「津軽富士見湖」の愛称どおり“美”そのものです。

津軽富士見湖周辺の環境保全と活用は、多くの野鳥のさえずりと、美しい自然に囲まれた津軽富士見湖の景観を最大限に生かした快適な生活環境整備を目的に、水環境整備事業により、堤体の法面保護工、親水遊歩道、アイリスの小径、そして青森県産ヒバ(樹齢150年以上)の木のぬくもりをたっぷり取り入れた、日本一長い木橋「鶴の舞橋」(三連太鼓橋、L=300m)を平成６年に整備しました。

ため池の写真

鶴の舞橋